



東京工芸大学・風工学共同研究拠点・研究集会（2014年3月1日）のご案内

密集市街地における換気筒を利用した通風・換気性状の把握に関する研究集会

現在の住宅では、室内空気質を良好に保つことを目的として24時間換気を導入することが義務付けられておりますが、継続的な換気を実現するためには現状では換気設備が必要であり、これらの設備は常に電力を消費しています。また、設備の老朽化によるメンテナンスや交換も必要となります。一方で、北アフリカや中東地域では換気塔を建築躯体として実現している採風装置が存在し、特にイランのバードギールと呼ばれる換気・通風塔の歴史は数千年に及び、室内の排熱と冷気の取り込みを土着の技術のみを使用し、安価かつクリーンなシステムとして人々の生活を支えています。しかしながら、換気塔に関する既往研究の多くは換気塔そのものの効果検証に留まっており、実際の建築物に設置した条件においての研究は少ないのが現状です。今回は、密集市街地の住宅に換気塔を設けた場合の換気性状について把握するとともに、今後取り組むべき課題を確認することを目的として、研究集会を開催することといたしました。関連して、業務ビルにおける自然換気を促進するため、排気用換気駆動力発生装置としての採用事例が増加してきている中空ボイドに作用する風圧力に関し、東京理科大学葛飾キャンパスの建物を対象とした実測と、数値シミュレーション予測結果の比較についても紹介したいと思います。

このような通風を行う室内では、結局のところ居住者の体感にとって、通風がどのように影響したかの評価が重要となりますが、通風室内の温熱感覚や快適性については必ずしも明らかになっておりません。通風室内環境の評価に的を絞った既往の温熱モデルの改良についても、最新の研究成果について情報提供し、通風のさらなる有効利用について検討を進めたいと考えます。一連のテーマに関心をお持ちの皆様に奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

と き： 2014年3月1日 15:15～17:00

と ころ： 東京理科大学 森戸記念館 第1会議室

東京都新宿区神楽坂 4-2-2

東京メトロ東西線／有楽町線／南北線／都営地下鉄大江戸線・飯田橋駅

B3出口から徒歩5分

JR線・飯田橋駅 西口改札から徒歩6分

<http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

問合先： 東京工芸大学・風工学研究拠点・研究員 塚本 健二

電話：046-242-9548 E-mail：tsukamoto@arch.t-kougei.ac.jp

<同日の13:30～15:00には、関連して「ウィンドキャッチャーによる通風性能向上に関する研究集会」を開催致します。こちらへのご参加も、是非お願い致します。>

東京工芸大学風工学共同研究拠点 研究集会
密集市街地における換気筒を利用した
通風・換気性状の把握に関する研究集会

プログラム

| | |
|-------------|---|
| 15:15-15:20 | 開会挨拶, 趣旨説明 野中 俊宏 (LIXIL) |
| 15:20-15:45 | 密集市街地における換気筒を利用した住宅の通風・換気性状に関する研究 滝澤 正玄 (東京理科大学) |
| 15:45-16:10 | 自然換気利用建物における換気効果の予測法に関する研究 上岡 弘明 (東京理科大学) |
| 16:10-16:50 | 通風室内の気持ちよさ評価モデル 森上 伸也 (東京工芸大学) |
| 16:50-17:00 | 討論およびまとめ |
